対象事業の論点に対する評価区分について

事業番号	1	事業名	せん定枝リサイクルプラント事業

論点	せん定枝のたい肥化を通じて環境保全型農業の推進に資する事業ですが、今後継続して多額の費用を投じる必要性（次の3つ）が論点となります。 ①せん定枝の再資源化の必要性 ②現施設で機能を維持する必要性 ③市がたい肥化して配布する必要性 多額の費用を要してせん定枝を再資源化する必要性は低いと考え、施設は廃止することを検討しています。

評価区分	評価内容 ※下段は論点に対する評価区分の例を表しています。
拡充	事業規模（事業量、予算、人員）を拡大し、事業内容を大幅に充実させる
	【例】せん定枝の資源循環と環境保全型農業の推進という目的は重要であり、リサイクルプラントはその中核施設として処理能力を向上させ施設を更新する。
要改善	事業規模または事業内容は継続するが改善する必要がある（実施主体の見直し、事業の手法・内容の一部見直し等）
	【例】現在の施設で運営方法を改善しより効率的に運営すべきである。
現行どおり	事業規模または事業内容を維持・継続する
	【例】現在の施設で事業手法等を含め、現行どおり実施する。
縮小	事業規模または事業内容を減らすもの
	【例】現行の手法は非効率である。施設は廃止し、再資源化は民間などに委託する。
廃止	事業を廃止する
	【例】市が多額の税金を投入してまで目的を追求する必要性は低い。施設は廃止し、せん定枝は焼却する。